

広報

伊方町

発行所
伊方町
愛媛県西宇和郡伊方町湊浦
〒796-03 伊方局38-0211
編集
総務課
印刷所
豊豫社
八幡浜市松柏 ☎22-0144

今月の紙面

- 二面……さようなら三崎航路
- 三面……民話と伝説(仁田之浜) 健康の窓「最近の育児」
- 四面……国民年金制度改正 歳時記「マツタケ」

ふるさと再発見

14年ぶりに「牛鬼」復活

今年行われた加周の一宮客神社の秋祭りには、十四年ぶりに古屋敷の牛鬼が復活。赤い胴体に黒の頭を付けた巨体が町に繰り出し、祭り気分を盛り上げました。

町内の秋祭りは十月十六日から三日間一斉に行われ、牛鬼や五ッ鹿、唐獅子などの出

し物が奉納され、五穀豊じょうと無病息災を祈りました。このうち加周の一宮客神社

の秋祭りには、十四年ぶりに古屋敷の牛鬼が復活。練りに参加するとともに、亀ヶ池を

船で渡御し、祭り気分を盛り上げました。古屋敷地区(四十四戸)は、

古くから牛鬼を秋祭りの出し物としていましたが、人出不足と高齢化などにより四十七年から休止が続いていました。毎年、秋祭りのころになると牛鬼の話題が会合の中心となっていました。賛否両論

なかなかまとりませんでした。今年、隣の加周地区が牛鬼を出すにあつて「本家が黙ってられない」と、十四年ぶりの復活となったもので

練り当日の十七日は、法被姿のかき手十数人がかつがれ、黒鬼の勇壮な姿を披露しました。

古屋敷のほか、町内で牛鬼を祭りの出し物にしているのは西・久保、仁田之浜、大浜などがあります。

秋意深まり、実りの好季節となりました。町民の皆様には一層ご健勝のことと存じ上げます。

不尚、私、先般九月二十日の第二十二回定例町議会におきまして議長に選ばれ、就任いたしました。

町におきましては、伊方発電所三号機の着工を前に、国のニューメディア・コミュニケーション構想の地域指定を受



14年ぶりに勇姿を披露した古屋敷の牛鬼。宮入りを前に亀ヶ池を一回り

祭りの象徴

牛鬼：「うしおに」「おしよにん」などと呼ばれ、宇和島では竹ボラのブウブウという音と、子供たちのヤレヤレという囃子(はやし)から「ブーヤレ」とも。

県内では南予を中心に、上浮穴郡や越智郡などでもみられる。

南予一帯では春・秋祭りを中心とした祭礼行事の象徴的な存在。十数人の氏子に担がれ、悪魔を払い、お旅所への先導役を務める。

頭は赤・青(緑)・黒などがあり、竹を割って作られた胴体は赤布で覆われている。一部には棕櫚(しゅろ)の毛を結び付けているものもある。定説はないが、一説には加藤清政が朝鮮征伐の際に、敵を威嚇するために用いたといわれている。

就任あいさつ



伊方町議会議長 福田 弘
(川永田・54歳)

け、より高度な情報化時代へ歩み出そうとしている時期であります。町民の皆さんが、こうした時代に対応し、その恩恵に浴することのできるよう最大限の努力をいたしたいと考えております。

一方、急速な勢いで発展して来た日本の社会は、目下、経済成長率の鈍化が言われて久しく、人口の高齢化現象と核家族化の進行の中で、住民福祉を低落させることなく行財政改革を推進して行くべきであると唱えられ、このことが、国及び地方の政治に課せられた大きな課題であります。

現下の状況を凝視し、将来の展望に立つて適確な行財政の運営がなされて行くよう各位とともに精励いたしたいと思っております。

今後とも、町民の皆様のご厚情あふれるご指導とごべんたつをお願い申し上げます。ごあいさつといたします。

【略歴】昭和五年十一月十二日生まれ。文教厚生・産業建設各委員長歴任。当選三回。

広報縮刷版

12月1日から発売

広報「伊方町」の縮刷版を十二月一日から発売します。ご希望のかたは、別添配付済のチラシに印刷してある納入通知書に住所と氏名をご記入のうえ、近くの金融機関から代金を払い込んでください。直接役場ま

たは町見支所へ持参いただいても結構です。代金は二千五百円。ただし町外のかたは送料四百円がプラスされます。現本の受け渡しは、町内のかたには払い込みしたその場で、町外のかたには後日郵送いたします。

広報縮刷版について詳しく知りたいかたは役場総務課広報係までお尋ねください。

ご苦労さま 問屋さん

時代の流れ



山口 剛(久保)

利用客も少なくなり、運休は止むを得ないと思うが、やはりさみしい。

昭和三十一年から始めたので二十九年。当時は九町から八幡浜まで二十四くらいだったと思う。船着場がなかったんで、天馬船にいったばい乗せて船まで運んだ思い出もある。時代の流れを感じる。

充実感も

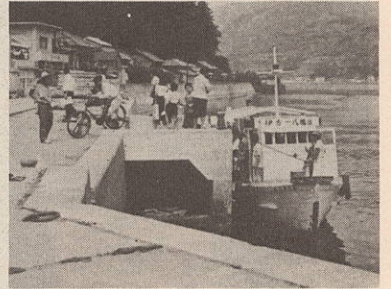


鈴木三代志(加周)

これで終るのかと思うと、ほんとうにさみしい。しかし、自分なりに「ここまでよくやってこれた」という充実感でもいっぱい。

小学校六年生のころからお世話させてもらっていたので、四十三年あまりになる。大勢の人との温かい心のふれあいがあった。思い出はつきない。

さようなら三崎航路



唯一の交通機関

八幡浜-三崎航路の運休で、八幡浜市と本町を結ぶ沿岸定期航路は、すべてなくなってしまいました。

半島部住民の足となって活躍した沿岸定期航路。汽船の発達に伴い、明治の中ごろから定期航路の開設が始まりました。当時は唯一の交通機関でもあったわけです。

大正から昭和初期にかけては、いくつもの船会社が先を競って航路を開設。旅客獲得合戦が繰り広げられた時期もありました。しかし、道路整備や自動車交通の発達に伴い徐々に衰退。昭和40年ごろになると、こうした船の便も、しだいに姿を消すことになりました。

伊方通いの定期航路(写真上)には、八伊川丸・伊方丸・千鳥丸・うわしおなどが就航していましたが、54年7月からは運休となっています。

また、豊之浦通いも昭和32年から「はまゆう」が就航してました。

数々の思い出秘め

90年の歴史に幕を閉じる



紙テープを持ち、最終便を見送る関係者(八幡浜港)

先月号でもお知らせいたしました。九月三十日をもって運休となりました。数々の思い出を秘め、九十年あまりの歴史に幕を閉じたわけです。

最後の便となった八幡浜港発十六時三十分の三崎行には、別れを惜しむ乗客ら三十人あまりが乗り込みました。棧橋には会社関係者約五十人が詰めかけ、八幡浜運輸の井上社長と梶原船長が固い握手を交わし、花束が贈られたあと、蛍の光が流れるなか最後の航海へ出発しました。

高速艇はゆっくり棧橋を離れると、汽笛を力いっぱい鳴らしながら沖合いを一周。長年通い慣れた八幡浜港を後にしました。このあと川之石・九町・加周に寄港し三崎方面へと向かいました。

この日の宇和海は波静か。白浜をけって走る高速艇を温から見守っているかのようでした。



はしけ船の時代も

三崎通いは船も大きく、昭和40年代前半の漁港整備が進むまでは、はしけ船(写真上)をつかっていました。

沖合いに停泊中の本船まで伝馬船で運ぶわけですから、波の高い日・雨の日・乗客が多い日などはたいへんだったようです。

また、沖合いを通る船を見て農作業の手を休めたり、昼食を取ったりするのを楽しんでいました。文字どおり、わたしたちの暮らしと密接な係わりを持っていたわけです。

「蛍の光」流れ

最終便に別れ惜しむ

最終便となった八幡浜港発午後四時三十分の三崎行きには、九町や加周、それに三崎方面へ向かう乗客三十人あまりがキップを買い求めていました。

ほとんどが親子連れやお年寄り。買い物袋を手にいっぱい持ち、足取りも重く待合所や棧橋を後にしました。

乗客のうち、本町の九町と加周までの乗客は十二人。最後の便と知って乗った二・三人を除くと、常連客(写真上)ばかりです。

常連客の一人、九町の脇田春雪さんは「子供のころから船とのかかわりが深かったので、やはりさみしい。また、加周の井桜雅之さんらは「うなったら、バスに苦手な人は困るが」と、残念そうに話していました。

六年間、高速艇「みさき」の「かじ」を取り続けた梶原船長(三崎町)は、港に着くたびに自ら棧橋に下り、問屋さんや深々と頭を下げて固い握手を交わしていました。

また、それぞれの港へ着くたびに船上から「蛍の光」の曲が流れ、棧橋では船が見えなくなるまで手を振って別れを惜しむ姿が見られました。

午後六時、最終便は無事三崎港に到着し、出迎えた三崎町長らが花束を贈呈。九十年あまりの労をねぎらいました。



民話と伝説

取材先/仁田之浜 補作/岡村 豊

②7

源平ゆかりの地

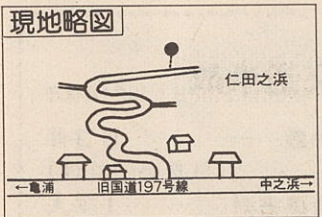
その16

仁田之浜のバス停留所の角から、農道へ入って、ずうっと登って行きなはいや。
最初の農道の別れ道を西の方へうかいし、さらに上の方へ車を進め、次の別れ道を、東の方へうかいしなはいや。ちいと行きよつたら山道があるののでそれを登らなはいや。見なはいや、あの、こんもりとした所がホノギでいう「中峯」で、通称、仁田之浜の人らは高神山と呼んではいらす。まこと、小さな祠があります。すらい。だれが縫うてあげるのかは知らんじやが、赤旗が立つとります。高神山の高神様」といよります。あの高神様は、平家

の落人じやとはいわいのう。わたしらも、あそのことは詳しくはよう知らんじやがな、やっぱりなんよのう、一一八五年(寿永四)に長門の国(今の山口県)の壇ノ浦

高神山の高神様

仁田之浜



農道から少し入った所にのこる小さな祠

自刃して果てたんじやそうです。すらい。それから、源氏に對するおん念が亡霊となつて現われ、毎晩のように武器を身にまとい、馬に股がり浜の浦を駆け巡つては高神山へ帰つては行きよつたそつです。その姿はだれも見えなはいや。だが、かぶとや刀剣のきしむ音と馬のひずめの音。そんなことが続くので浦人たちが相談して小さな祠を建て、神として祭つてあげてからは、高神山の亡霊も出んようになつていす。これよりほかにも、部落内をよつ見つめたら、歴史が見え、振り向けば時代を感じます。高神山の高神様を思えば、まだ胸は熱くなりす。通りすがりにでもお参りしてあげたらええと思ひますがな。協力者：亀井源松さん (仁田之浜) 係から

人権コーナー

人権を

守つてえ顔 きみとぼく

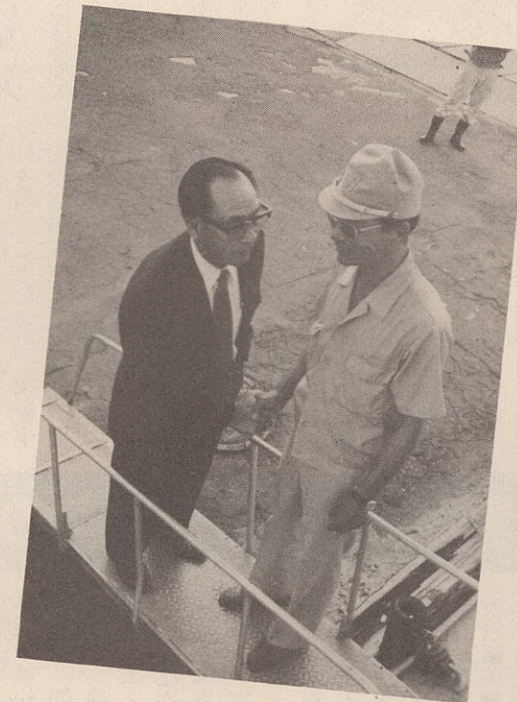
水上 仁吾(町見中一年) 水上くんの作品は、昨年度町人権擁護推進協議会が募集した人権作品で、標語部門の「人権擁護委員伊方部会長賞」に選ばれたものです。



▲最終便に乗り込む乗客(八幡浜港)



▲五色のテープで飾り付けが行われる高速艇

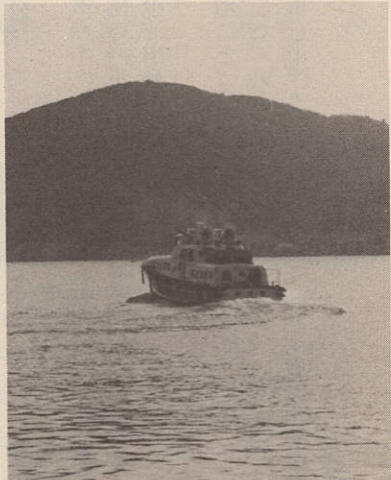


▲会社の代表者と固い握手を交わす梶原船長



▲長年の労をねぎらう花束の贈呈

▼午後4時30分最後の航海に...



健康の

窓

健康の窓は、皆さんが開けなければなりません。保健センターでは、そのお手伝いをしたいと考えています。

最近の育児

九月十七日に、今年四回目の保健推進員研修会を開きましたところ、忙しい中、三十三人の出席者がありました。映画「母と子のきずな」、講演「最近の育児」、座談会などが当日の主な内容です。

「昔は人に迷惑をかけるように...ということが、うるさいほどいわれてきた。今は子供の好きなようにさせている。家庭でしつける人がいないのではないか」

「今のお父さんもお母さんもしからなくなつた。よその家で早朝から夜遅くまでテレビゲームをしている子供もいた」

「昔は、おんぶしながら家事をしていたが、今はあまりおんぶしない」「雨の日には子供の服を縫ったりした。また、おやつは手づくりが当たり前だった」

座談会では「育児変遷のあれこれ」が次から次に熱っぽく話し合われましたので、そのときの意見を少し紹介いたします。

歳時記

マツタケ

庶民の食卓からは縁遠くなってしまったマツタケですが、いったい今、どのくらい採れているのでしょうか。

林野庁の調べでは、昨年の国内生産高は約180トン。国民1人当たりになると、1.5グラムという微量です。

これに対し、輸入高は1,082トン。内訳は韓国629トン・北朝鮮375トン・カナダ66トンなど。日本の店頭に並ぶマツタケの86%は輸入品ということになります。いずれも飛行機で送られてきますが、北朝鮮からは直行便がないので北京経由で運ばれてきます。

今では希少価値の国産マツタケですが、昭和30年ごろには3,000トンも採れていました。こんなに減ってしまったのは、落葉や小枝を拾う人が少なくなったからだといわれます。マツタケ菌はデリケートな菌なので落ち葉かきや下草刈りなどの手入れを怠ると、他の菌に負けて生えにくくなってしまいうのだそうです。

では、マツタケの人工栽培はというと、一昨年に岡山県の試験場で菌を移植する実験をしたところ、やっと1本だけ生えてきた程度とか。マツタケ・ショウロ・シメジの栽培はかなり難しいようです。(市販の人工シメジは、実はヒラタケ)

ところで11月は、23日を中心に全国で農林水産祭が行われます。東京・晴海の貿易センターで開催される「実りのフェスティバル」(16~18日)はそのメイン行事の一つ。マツタケはもちろん、全国の特産品の展示・即売が人気を集めています。

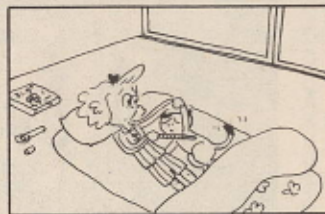


兵庫県伊丹市森本六丁目一七六にお住いの足利五久雄さん(中浦出身)から一万円。広報編集費用にとご寄付いただきました。紙上から厚くお礼申し上げます。

お礼

さわやか君

西村 宗



体温が四十度もあるわッ
そう一度計って、救急車を呼ぶわッ
任意加入されていない人
現在、国民年金に任意加入されていない人は、昭和六十一年四月一日以降に加入手続きをしてくださいます。

国民年金制度が昭和六十一年四月一日から大幅に改正されます。主な改正点は、現在、任意で国民年金に加入できることになっている会社員(厚生年金



保険被保険者)の配偶者(二十歳以上六十歳未満)も、この日からすべて国民年金に加入しなければならなくなりま

任意加入している人

現在、国民年金に任意加入している人には、社会保険庁から十月下旬から十一月月上旬にかけて送付されてくる届出用紙(国民年金任意加入被保険者現況届)によって、次のいずれかの方法で届出てください。

なかも、健康保険の被扶養配偶者として認定されている人は「第三号被保険者」といって、保険料は会社員が納めている保険料全体の中でまかなわれることとなります。このため、昭和六十一年四月分以降は納める必要がなくなりませんが、健康保険の被扶

①届出用紙を配偶者の勤務先に提出し、事業主から健康保険の被扶養配偶者であることの届出が必要で

②配偶者の勤務先での証明を受けられない場合は、配偶者の健康保険被保険者証と年金手帳または厚生年金保険被保険者証を添えて、役場住民課国民年金係へ届出てください。

町内の交通事故

10月1日現在

発生件数.....53件 (9月.....4件)
負傷者数.....17人 (9月.....3人)

シートベルトの着用が義務付けられてから早くも一カ月が経過しました。その間、組織的な推進運動が功を奏し着用率は大幅に向上。県内では倍増の六〇%あまりに、町内でもほぼ同じ傾向です。今後、さらに徹底をはかり一〇〇%着用を目指しています。車に乗ったら、まずシートベルトを付けましょう。

伊方・町見駐在所

雇用保険の

手続き今すぐ

十一月一日から三十日までの一カ月間「雇用保険加入促進月間」と題し、雇用保険制度についての衆知徹底が行われます。

雇用保険は失業の給付や予防を行うことにより、労働者の生活の安定とその就職の促進を図ることを目的としています。

したがって、労働者を雇用する事業所はすべて加入しなければなりません。加入手続きが終了していない事業所は今すぐ加入してください。

加入手続きは八幡浜公共職業安定所(二二一四〇三三)、町商工会または社会保険労務士へお尋ねください。

人の動き

昭和60年9月1日現在
世帯数2,602戸(+7戸)

8,603人 (男4,157人(+5人))
人口 (+18人) (女4,446人(+13人))

えんむすび

昭和60年8月1日
8月31日

お誕生おめでとう

よい子に育ってください
昭和60年8月1日
8月31日

おくやみ

昭和60年8月1日
8月31日

えひめ農林水産まつり

愛媛県と県下七十市町村の共催で、十一月二十三日から二日間、第二回「えひめ農林水産まつり」を開催します。特産品の展示即売、ふるさと市、ハイテク技術展、伝統文化の紹介、チビッ子広場など二十四のイベントを計画しています。多数ご来場ください。この農林水産まつりに出品を希望されるかたは、十月末日までに役場産業課までご連絡ください。

【と き】十一月二十三日(土)、二十四日(日) 雨天決行

【と ころ】松山市内 愛媛県民会館周辺及び大街道

こちら編集室



日暮れにおなかをすかせて急いで帰ってくるお子さんにせき立てられ夕食の時間が早くなった家庭も多くなったことでしょう。そのぶんだけ夜の時間が長くなったわけですが、残暑も終って、まだ寒さには間のあるこのごろ、秋の夜長にいい夜ふかしをしてしまいいそです。

至(十二月二十二日)の前後ですが、夏の短夜の後の夜の長くなったことをしみじみ感じます。このころになると始まるのが年賀はがきの話題。今年も、お年玉付き年賀はがきの発売は十一月五日です。伊方・町見郵便局の発売枚数は四十円が約二十万枚、四十二円が十六万枚です。一戸平均にすると約百四十枚になります。釣瓶落としは秋の日ばかりでなく、一年が過つのも、そんな気がしてなりません。